

# コロニー中央病院だより

## あいち小児保健医療総合センター心療科がコロニーへ移管

	28年度	29年度	30年度	31年度
あいち小児 (心療科)		心療科廃止 (37床)	(病棟改修)	
三の丸病院	(病棟廃止)	H29.10 診療科開設 (心療科)		
コロニー (心療科)		心療科移管	心療科仮病棟 開設 (20床) (旧機能訓練センター活用)	新センター 全面開所 (33床)

平成23年11月に策定された「愛知県地域医療再生計画」において、あいち小児保健医療総合センター（あいち小児センター）と心身障害者コロニー（コロニー）の機能の再編が取り上げられました。具体的には、コロニーは発達障害を含めた障害児者医療の拠点施設となるという考え方に基づき、あいち小児センター心療科はコロニーへ移管されるということです。その移管時期は、当初、コロニー再編整備後のあいち医療療育総合センター（仮称）の開所時としておりました。しかし、開所時期が平成29年度から平成31年3月に延期となった事、一方であいち小児センターでは小児3次救急体制

を全面実施するため、心療科病棟を救急棟の後方支援病棟として速やかに使用する必要があります。結果的にはあいち医療療育総合センター（仮称）の開所に先立ち、平成30年4月に心療科を移管することになりました。

コロニーでは、平成30年4月から、あいち小児センター心療科の患者を受け入れるため、平成29年度にコロニー中央病院内にあります機能訓練センターを改修し、心療科の仮病棟と院内学級の整備を進め、さらに、平成31年3月にはあいち医療療育総合センター（仮称）の本館棟3階に従来のコロニー児童精神科病棟（25床）と隣り合わせの形で心療科の新病棟（精神科病床33床）を設置し、より充実した医療の提供を行い、障害児者医療の拠点施設としての機能を発揮してまいります。

知多半島にあるあいち小児センターの心療科では、発達障害など子どもたちのこころの問題を専門的に扱っており、利用者は県内各地から通院されております。これまで、あいち小児センター心療科へ通院している方々のご負担をできる限り少なくし利便性を確保するために、名古屋市内に心療科のサテライト機能を有する通院施設を確保することについて検討が重ねられました。こうしたなか、名古屋市中区にあります愛知三の丸病院が、平成29年度から愛知三の丸クリニックとなり、病床がありました3階部分の利活用方法を検討していたことから、サテライト機能を有する心療科をここに設置することとし、平成30年4月の心療科病棟の開所に先立ちまして、平成29年10月13日から診療を開始されております。愛知三の丸クリニックの小児心療科は、週2日の診療日で診療を開始しました。平成30年4月からは、週5日に診療日を増やし、段階的に診療体制を整えてまいります。

コロニーでは、新センターに向けての工事が進行中で、平成30年度末の完成までは、駐車場の規制や騒音、動線の変更など何かとご不便をかけることも予想されます。どうかご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

### ■中央病院の理念と基本方針

私たちは成長や発達に支援を必要とする方々に、より良い医療を提供するように努めます。

- 1 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしく安心できる医療を行います。
- 2 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し良質な医療を専門的に提供します。
- 3 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します。
- 4 成長・発達に影響する病気の原因追究および治療法の開発を発達障害研究所やこぼと学園と協力して進めます。

## 第6回あいち小児在宅医療研究会開催

### 「小児在宅を支える医療技術」

小児期発症の障害児（者）の在宅医療体制の充実を図ることを目的に、愛知県心身障害者コロニーと名古屋大学医学部障害児（者）医療学寄附講座の共催で、平成24年度から「あいち小児在宅医療研究会」を開催しています。第6回となる今年は、「小児在宅を支える医療技術」をテーマとして、平成29年12月10日に愛知県医師会館にて開催しました。参加者総数は259人でした。

基調講演は、医療法人財団はるたか会理事長、あおぞら診療所新松戸院長の前田浩利先生より「小児在宅を支える医療技術―あおぞら診療所の実践―」としてお話を伺いました。近年、新生児死亡率の低下に伴って、いわゆる超重症児のみならず、運動発達・知的発達が良好でありながら日常生活で人工呼吸器、吸引、経管栄養などの医療的ケアが必要な子どもたちが増加しています。これらの子どもたちの社会参加を進めるうえで、生命の安全・苦痛の緩和を地域で支える医療技術は不可欠です。さらに小児がん等の緩和医療においても、呼吸苦や疼痛を除く手段として医療技術が活用されます。あおぞら診療所の豊富な経験を紹介しながら、小児在宅医療の現状と問題点を熱く語っていただきました。



前田浩利先生



シンポジスト（左から）

前田浩利先生、家田訓子先生、安井隆光先生、加藤篤先生、新見教弘先生



シンポジウムは「小児在宅を支える様々な医療技術」として、4人の演者にご発表いただきました。公立陶生病院小児科新生児部長の家田訓子先生からは、「安心・安全な小児在宅人工呼吸療法を目指して」として多職種協働による安全管理の取り組みをご紹介いただきました。こども訪問看護ステーションじんおかざき理学療法士の安井隆光様からは、「小児訪問リハビリテーションの役割」として病院や施設ではなく自宅で生活に密着したりハビリテーションを行うことの意義をお話いただきました。愛知県心身障害者コロニー中央病院小児歯科医長の加藤篤先生からは、障害児者の歯科医療についてご発表いただきました。今回は多くの歯科医師、歯科衛生士の方々にもご参加いただきました。愛知県心身障害者コロニー中央病院総合診療部長（小児外科）の新美教弘先生からは、障害児者の外科医療、とくに胃瘻のトラブル対策について事例をもとにご紹介いただきました。ディスカッションでは活発な質疑応答がなされました。

第7回あいち小児在宅医療研究会は平成30年12月9日に開催いたします。今回は事前申込みが多く、多くの方をお断りせざるを得ませんでしたことお詫び申し上げます。次回は第4回までと同じ名古屋大学病院の講堂に戻ります。皆様のご参加をお待ちしております。

# NEW FACE

## 新任医師紹介



小児神経科 細川洋輔 先生

出身地：三重県津市  
前任機関：豊田市こども発達センターのぞみ診療所  
趣味・特技：釣り好きです。釣果はよくないですが、海を見ていると癒されます。  
コロニーの印象：重症心身障害者医療の中核、専門機関

病院勤務から離れていたため、病棟業務など不慣れなところも多いです、初心にかえり頑張りたいと思います。いままでの経験を活かし患者、患者家族に寄り添った医療ができればいいなと思っています。今後ともよろしくお願ひします。



What  
is

## 認定看護師



西4病棟 精神科認定看護師 鵜飼 秀明

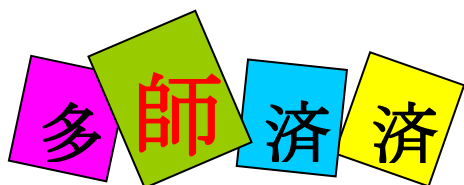
平成29年4月に中央病院西4病棟に配属しました鵜飼です。昨年度までは、あいち小児保健医療総合センター心療科で精神科認定看護師として働いていました。平成30年度に心療科が当院へ移管するというので、4月の開棟に向けた準備に関わらせてもらっています。

私は以前に勤務していた愛知県精神医療センターで、思春期病棟での看護を経験し、思春期における精神科看護に興味を持つようになり、その頃の上司の勧めで精神科看護協会の精神科認定看護師（児童思春期領域）を取得しました。現在の児童思春期における社会的問題に、発達障害と虐待があります。どちらも毎日のように新聞に記事が載り、社会的関心の高さが伺えます。心療科も主な対象疾患はその2つで、社会的役割が大きい病棟だと考えています。心療科病棟では患児や家族への支援の他に、もう一つ大切なことがあります。それは教育で、治療と教育を両輪とした療育環境の構築が子ども達の成長発達には欠かせません。しかし、全国でも十分な教育が受けられる精神科病棟はまだ少ないのが現状です。当院は特別支援学校を併設していることで、通常の院内学級では制限される授業時間の問題に対応出来る可能性があります。現在、協力が得られるように調整中です。

まだまだ準備途中ではありますが、子ども達にとってより良い療育環境を目指し、当院が愛知県の発達障害の拠点施設となるように準備を進めていますので、まもなく開棟する心療科病棟をよろしくお願ひします。



## スタッフ紹介



### 小児神経科 医師 山田桂太郎

私が医師になって最初に担当した入院患者は脊髄性筋萎縮症 I 型の乳児の子でした。兄弟から RS ウイルスが伝染し、重症肺炎になりました。数か月に及ぶ集中治療を要する状態となり、窮地を何度も乗り越えました。気管切開・人工呼吸器管理で一旦は安定状態になりましたが、数か月後に亡くなりました。ご両親は自宅に連れて帰りたいと切望していました。当時の私には在宅医療への移行の知識がなく「無理に決まっている」と決めつけていました。

5年目に、ある総合病院の NICU に異動になり、気管切開・人工呼吸器療法を要する状態に至った染色体異常症の子を担当しました。家族は施設入所を希望していましたが、入所病床の空きがないことを理由に強引に在宅移行を進めました。在宅移行に向けて自宅に近い病院に転院した数日後、亡くなりました。集中治療を尽くしても、重い障害を背負い継続した医療支援が必要な子は繰り返し経験するのに、支援するための診療知識・技術は未熟でした。それから 10 年以上もたった今でも十分な支援が来ているとは思えませんが、知識の習得と経験を重ね、患者さんとご家族に配慮した対応を心がけるように努力しています。

最近では医療ケアを要する障害児への支援に関する研究会・講習会の機会が増えてきました。当施設でも毎年、障害児医療の研修会がいくつか企画され、啓発活動が行われています。この流れが今後も継続し、障害をもつ患者さん・ご家族に優しく配慮ある対応が出来る医療スタッフが一人でも増えることを願っています。

### ～問診票～

- 出身地はどこですか？  
岐阜県大垣市
- コロニー在籍何年ですか？  
7年
- 趣味は？  
掃除、草抜き
- 血液型は？  
AB型
- 猫と犬どっちが好きですか？  
どちらも好きです
- 最近、気になるニュースは？  
小室哲哉さん引退
- マイブームは？  
漫画 major
- コロニーで好きな所は？  
運用部建物前の施設の表札

### コロニー祭の思い出

平成29年10月1日(日)に毎年恒例のコロニー祭が開催されました。中央病院でも、「外来ロビーコンサート」、「抹茶コーナー」、「健康チェック・看護師体験」の3つのイベントを主催しました。



当日は天候にも恵まれ、施設の利用者や職員・ボランティアなどを含めてなんと約2700人もの方々に参加していただきました。

外来ロビーや総合管理事務所もこの日には人があふれて大賑わい。たくさんの方々に楽しんでいただくことができました。